

「こころの体温計」の充実



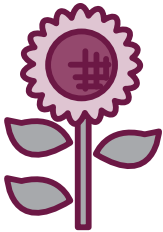
やまもと かずえ
山本 一恵
議員

質問 うつ病を早期発見し、自殺を予防するために、落ち込み度やストレス度が簡単にチェックできる「こころの体温計」を5月から導入し、現在4つのチェックリストがあるが、これに産後の不安な心の健康状態をチェックできる「赤ちゃんママモード」の追加はできないか。また、ホームページのトップに載せることはできないのか。

答弁（保健福祉部長） 「こころの体温計」については、5月よりホームページにて運用開始した。周知は新聞折り込み、広報で配布。また村内金融機関、コンビニ



エンスストア等の広報スタンドにチラシを置いていた。なお、「赤ちゃんママモード」については、6月から追加する。また、ホームページからのアクセスについては、6月のホームページ更新は、6月のホームページ更新時に1面から直接接続できるアイコンの設定を行う。



若年層定住対策について

質問 人口減少問題、特に若年層の人口減少は深刻な課題で本村でも進学、就職等の理由で転出する人口が増加している。そこで本村の人口減少対策、特に若年層の人口減少対策として取り組んでいる定住促進事業や空き家対策等について、これまでの実績及び今後どのように反映し拡充していくのか。

答弁（総務部長） 人口減少対策、特に若年層対策として実施している、定住促進奨励金の交付状況は31件うち15件が転入で若年層は20人。空き家バンクは8件の契約で、うち5件が若年層である。そのほか学校の耐震化率は100%となり、通学路の歩道整備等も重要課題と捉え、推進している。これらの事業の更なるPRの強化を図っていく。

また、教育、医療の面からも若年層が定住しやすく、どの年代の方も住みやすい環境をつくるため、制度や施設の整備の充実を図るよう努力をしていく。

答弁（村長） 人口減少、特に若年層という点を捉えると、生活しやすい、暮らしやすい、便利さを求められると難しい現状がある。本村としては、住み続けていただけるように、特に若年層の定住促進のために、雇用の確保や、生活環境の整備をしていきたい。

